

第二部 —— 南ベトナムにおけるアメリカ帝国主義者の戦争犯罪

白骨の胸に小さな白骨——焼きつくせ、破壊つくせ、殺しつくせ

南ベトナムにおける侵略戦争でアメリカは道徳、人間的な良心、戦争の規則や習慣を無視して、ありとあらゆる野蛮な行動をとりつづけている。

民間人の大量虐殺
 ——
 アメリカ侵略者は老人、婦人、子どもをふくむ南ベトナムの非戦闘員にたいと全地域の荒廃化
 ——
 し、大規模なまったく野蛮な皆殺しをおこなっている。かれらは歩兵、空軍、砲兵を使って村や部落を破壊し、村民を殺している。

多くのところで、アメリカ侵略者は、全村民を一カ所に狩りあつめて機関銃で撃ち倒した。残忍なドイツ・ファシストそのままに、アメリカ侵略者は南ベトナム解放軍から手痛い打撃をうけるたびに、非戦闘員にたいして報復をおこなった。かれらは米海兵隊にたいして、銃声が一発でもきこえたら、その村を焼き払うよう命令しさせた（ニューズ・ウィーク誌一九六五年八月一六日号）。

ドイツ・ファシストにおとらない凶暴さ、残忍さをもって、アメリカ侵略者の軍隊は侵攻にさいして「焼きつくし、破壊しつくし、殺しつくす」という「焦土作戦」を実施している。

サイゴンの米軍司令部は南ベトナムの広大な地域を「第一焦土目標」に選定した。これらの地域は米空軍にとっては「自由爆撃地帯」であり、地上部隊にとっては、血みどろの「掃討」によって「白色地区」にするべき地域である。

チエコスロバキアはリディチエ、フランスは、オラドール（いずれもナチによる大量虐殺の地）を経験したが、今日の南ベトナムはより多くの大量虐殺の実例を提供している。

クアンナム省ホアバン県のダナン市から約五キロ南にある二つの村、チャウソンとカムレの例をとってみよう。巨大な米空軍基地をめぐる「周辺防衛区」を拡大するために、一九六五年八月二、三日、アメリカ侵略者は、これら二つの村を消し去る目的で、大挙「掃討」にのりだした。米海兵隊員はすべてを破壊し、すべてを焼き、すべてを殺すよう命令されていた。かれらは血に飢えてあばれまわり、気狂いのように撃ちまくり、「殺せ。だれ一人生かしておくな」「きょうはおれは殺し屋だ」などとさげんだ。

チャウソンへの侵入者に同行したAP通信の記者はつぎのように書いている。「一人の海兵隊が、ベトナム人たちが空襲のときや砲撃のさい避難する地下壕（ごう）に手投げ弾をなげこんだ。数分後、ぐしゃぐしゃになった二人の子どもの死体——うち一人の子どもは頭の半分がふっとんでいた——が壕から引きずり出され、鞆物袋かなにかのように地面に手荒らくほうりだされた」

カムレ村への侵入者に同行したCBS放送の記者によると、米海兵隊員は計画的にほとんど全戸を焼き払い、村民たちが家財を持ち出そうとするのを妨害した。

襲撃のあとこれら二つの村にのこされたものは、くすぶりつづける灰の山と焼けこげた柱、大部分が女、子どもである非戦闘員の死体だった。

ことしのはじめ、サイゴン西北西約三十キロ、バムコドン川の南のドックホア村にたいする「掃討」ではアメリカ空挺(てい)隊はもつとも残忍な「焦土作戦」を実施した。一月六日のAP通信によれば、「空挺隊は、見つけたすべての村民を追いたて、狩りあつめ、川の北側につくった移住キャンプに追いこんでおいて、およそ食料と名のつくものや生活必需品のすべてを焼きはらうよう命令された。隊員が見かけたすべての家は焼かれ、炊事用具はぶちこわされ、バナナの木は切りたおされ、ゴザまで切りさかれた」。

一九六六年三月二日から二四日まで、米海兵隊がおこなったクアンガイ州北部のフォンジン村にたいする「掃討」について、AFP記者の報道はつぎのようにのべている。

「チュライの南二十二キロのフォンジン村は地図の上だけの存在となった。米海兵隊三個大隊がおこなったカテキサス作戦^カによって他の二つの村とともに炎の洪水で消し去られてしまった。米軍の砲弾は一本の立木といえども見のがさなかった。村の北のはずれの田んぼは納骨堂にかわった。多数のくさった死体が一〇インチの深さの泥水のなかに乱雑になげこまれた。村には生きている人間はただの一人も見あたらなかった。女も子どももそこにはのこっていなかった」。

アメリカ侵略者とかいらいたちは、捕えた非武装人民や解放軍の戦士にたいして、まったく非人間的な方法による拷問や虐殺をおこなっている。かれらは捕えた人びとを解体したり、肉をすこしずつ切りとっていたり、生きたまま火をつけたり、埋めたりしている。さらに残虐なことには、両親の面前でその子どもを打ちすえたり、殺したりしている。かれらは婦人を死ぬまで暴行し、あるいは殺す前暴行している。さらにかれらは犠牲者の腹を切り開いて肝臓をとりだしたり、目をえぐり出した、あるいは装用車を使って道路上をひきずりまわしたりしている。かれらはまた非武装人民を防空壕に追いこんで毒ガスをまいたこともある。

第二次世界大戦のヒトラー・ファシストによっておこなわれた、身の毛の逆立つような犯罪が、いま南ベトナムでアメリカ侵略者によってくりかえされているのである。

ヒットラーをしのぐ兇暴・残忍行為

クアンナム省ティエンフォック県のフォックカム村で南ベトナム解放軍の戦士たちが丘のわきで壕を掘っていたとき、二十二人分の人間の骨をそれぞれ異った場所で見つけた。うち一体は胸のところに小さな骨格の一体を抱きしめていた。

同じ村の他の丘で、戦士たちはさらに八二体の人骨を発見した。同じ省のフォックソン村のゴバンとよばれる丘のわきでも同様な大殺りくのあとが発見されたが、ここには首をしばってつながれた五

五人の死体があった。

これらの事実は南ベトナムにおけるアメリカ侵略者の残虐行為が、ヒトラー・ファシストが、アウシュヴィッツやその他の収容所で行なった大量殺人行為にまさるともおとらないことをしめしている。いやその熱達と残忍さにおいてはアメリカのほうがはるかにヒトラー・ファシストをしのいでいる。

アメリカ侵略者とかいらいはまた、全地域を破壊し、消滅させ、人びとを皆殺しにするというまったく非人道的な戦争行為を遂行している。

かれらは空軍と砲兵による集中砲火を人口密集地域にあびせ、多くの非武装人民を殺し、多くの村や部落を破壊し、南ベトナムの文化、公共建造物を破壊している。

マクナマラ米国防長官によると一九六五年、米空軍は南ベトナムで一万三千波にのぼる爆撃をおこない、二五万トンの爆弾を投下した（AFP通信一九六五年一月二〇日）。ことし二月のワシントン・ポスト紙によると、米空軍は前年一二月だけで四万トンの爆弾を投下した。ことしのはじめには、空爆の規模はいっそう拡大した。米空軍は平均一日四百波の攻撃をおこない、ときにはそれ以上におよぶ爆撃がおこなわれている。一月二五日には五百二五波、三月九日には六百四八波にたっている（AFP通信一九六六年三月一〇日）。

マクナマラ米国防長官はまた、ことしベトナムで総計六三万八千トンの爆弾が使われることを明らかにした。これは朝鮮戦争の全期間を通じて投下された爆弾の総量の約九一パーセントにあたる。

(一九六六年四月二〇日A P電)。

一九六五年六月一七日、アメリカ侵略者は、グアムを基地とする戦略爆撃隊を南ベトナム爆撃に使いはじめた。このときから一九六六年六月一八日までの三百六五日間、アメリカB 52戦略爆撃機は南ベトナムに三百五十回の攻撃をかけた(U S I S、一九六六年六月一八日)。

通常、これらの戦略爆撃機は「集中爆撃」戦術にしたがって、六千メートルから八千メートルの高度を編隊で飛び、ひとつの地域全体に七百五十ポンドから千ポンドの爆弾を無差別に投下する。爆撃の効果をいっそう破壊的にするため、アメリカ侵略者は一回の爆撃で二種類の爆弾を混用している。そのひとつは、地上から約二〜四メートルのところで爆発する爆弾で、防空壕にはいっていない人びとを殺すため、はじめに投下される。つぎに、地中に五メートルぐらいいぐってから爆発するものが投下される。これは防空壕にはいっている人びとを殺すためである。

ジャディン省のクチ県では、わずか六キロ平方の地域にB 52が千八百トンの爆弾を投下したことさえある。

一九六五年五月二十日、アメリカ侵略者は、南ベトナムの沿岸の村むらを爆破するため、第七艦隊の大口径艦砲を使いはじめた。

ガルベストーン号、マッケンジー・エドソン号、モーア号などの米戦闘巡洋艦、駆逐艦が、五インチ砲以上の大砲で沿岸の村を砲撃し、多数の民間人を殺した。小地域に集中的に数百あるいは時には数千の大量の砲弾をうちこむやかたは、航空機による激しい爆撃にまさるとも劣らない破壊をもたら

す。

ベンチエ省のトイトウアン村を例にとると、一九六五年一月三十日、この村には五インチ砲弾が三百発うちこまれた。ことし一月二五日、米第七艦隊の三隻の軍艦がビンディン省の沿岸の村むらを砲撃し、六百二八戸の民家を破壊した。昨年十月二七日、やはり、第七艦隊の軍艦数隻が同省のいくつかの沿岸地域に約千百発の砲弾をうちこんでいる。

さらに、アメリカ侵略者とかいらい軍は、百五ミリ、百五五ミリ、百七五ミリ、二百三ミリの大砲による砲撃を強めている。米第二五歩兵師団の砲兵連隊第一大隊は、一九六六年一月一八日にジャダイン省クチ県に侵入してから同二月二八日までの間に、周辺地域に総計一八万発の砲弾をうちこんだが、これは一日あたり四千五百発である（一九六六年二月二八日AFP電）。

アメリカ侵略者とその手先たちはまた、南ベトナム人民を飢餓に追いこんで屈服させようとして作物を破壊し、米やその他の食物を焼いている。かれらは、空から毒性薬剤や爆弾をばらまいて作物を破壊し、かれらの支配下にはない多くの地域で、//米(コメ)略奪作戦//を展開している。

西側の通信記者たちは、多くの地域で、アメリカ・かいらい軍の第一の攻撃目標がゲリラではなく米であった事実をしばしば指摘している。昨年一二月二二日のAFP電は、アメリカ・かいらい軍が作戦のたびに、米や塩の貯蔵を破壊している、と伝えた。同電によると、水牛も、もし連れていけなるとなれば立ちどころに殺され、この破壊政策は、舟や車などの輸送手段にも適用されている。

アメリカ帝国主義者が南ベトナムの侵略戦争でもっとも野蛮な行為、人類にとってけつしてゆるせ

ない行為を働いていることは明らかである。

全部隊に装備・使用される最新化学兵器の犯罪

大規模な毒性薬剤と毒ガス使用による非武装人民の虐殺。毒ガスは通常兵器化されている。

アメリカ侵略者は、道徳や人間としての良心、国際法規をまったくかえりみず、南ベトナムで化学戦を

おこなっている。かれらは、各種の毒性薬剤、各種の毒ガスを戦闘手段として公然と大規模に使い、非戦闘員さえも大量に殺害し、同時にかれらの化学兵器の実験、改良をしている。

一九六一年いらい、アメリカ侵略者は、南ベトナムの多くの地域で空から毒性薬剤を散布して作物を枯らし、一般住民を殺している。かれらはいつも、これらの薬剤はたんなる「除草剤」にすぎないとか、「草木を枯らすだけのもの」といいはっている。しかし、事實は、これらの薬剤が、樹木を枯らし作物を破壊するだけでなく、人体や家畜に害をおよぼし、殺すものだということをしめしている。ベンチエ、ゴコン、ミトー、タイニン、ジャデイン、フーエン、ジャライなどの諸省では一九六三年のはじめの数ヵ月間に、米機が散布した毒性薬剤によって害をうけた人びとは二万人近くにたった。カント省では一九六五年一月一四日、一五日に数千人の人びとが害をうけ、一万ヘクタール以上の土地で作物が破壊された。

アメリカ侵略者は、これらの否定できない事実をつきつけられて、かれらが24—D、2・4・5T

を使ったことを認めた。これらの薬剤は、高濃度で使えば人畜に有害で危険なことが知られている。南ベトナム解放赤十字の研究と分析の結果、アメリカ侵略者はこのほかに、ジニトロ・オソクレンゾールDNC、シアナミド・カルシ、砒(ひ)素化合物などのもっとも危険な毒性を使用していることがわかった。

DNCは、うすいオレンジ色で火薬のようなにおいがする薬剤で、これがふれると膿(うみ)をもつたできものができるなど人体にひどい作用をもたらし、家畜は死に、樹木は枯れる。シアナミド・カルシは樹木を枯らす強力な作用をもち、人畜にひどい影響をあたえ殺すこともある。

南ベトナム解放民族戦線中央委員会公共保健部、南ベトナム解放赤十字が最近毒性薬剤のまかれた地域でおこなった第一次調査の結果によると、これらの薬剤で殺された人びとの比率は三〇パーセント増大している。またこれらの地域の住民の五六パーセントが、食物を通じて体内にはいった毒性薬剤のため、腸の障害、七〇パーセントが気管支障害をおこし、多くの母親が乳が出なくなり、多数の妊

年	回数	被害をうけた省	被害人員	殺された家畜	被害地域 (ヘクター)
一九六一	一一	六	一八二	一二〇	五六〇
一九六二	四〇	一一	二二〇	四四八	一一、〇四〇
一九六三	一九二	一六	九、〇〇〇	四、五〇〇	三二〇、〇〇〇
一九六四	不明	一九	一一、〇〇〇	七、五一一	五〇〇、二三〇
一九六五	不明	二六	一四六、二四七		七〇〇、〇〇〇

婦が流産した。

南ベトナムにおけるアメリカの化学戦のもたらした被害を統計で示すと前頁表の通りである。

一九六五年一月二五、二六、二七日、米機はクイニョン南方約百キロのフーラク村（フーエン省）をおそい、ナパーム弾、破裂弾、毒ガス弾をばらまいた。この爆撃で毒ガスだけで死者八十人、害をうけた者数百人が出ている。

一九六五年九月五日、ビンクアン部落（ビンディン省）はレオン・アーサー中佐の指揮する米軍一大隊に攻撃された。同部隊は、退避ごうへ、一ぺんに四八個の毒ガスびんをなげこみ、三五人を殺したが、その大部分は婦人と子どもであった。

バランアン地区（クアンガイ省）でアメリカ軍は一九六五年九月八日、ガス手投げ弾を防空ごうに投げこみ、七八人の非武装人民を殺した。

それ以来毒ガスはますます広く公然と使用されるようになった。一九六五年九月二二日、マクナムラ米国防長官は、アメリカ軍が南ベトナムで毒ガスを使用するよう命令されているとぬけぬけと声明した。こうして毒ガスはアメリカ侵略軍の「基本的標準兵器」となり、いまではすべてのアメリカ戦闘部隊がこれを装備している。

一九六六年一月二日、パウチャイ地区（ロンアン省）襲撃のさい、アメリカ侵略者ははじめて「マイトマイテ」とよばれる一種の噴霧器をつかった。これは一時間に二百八五キロメートルの速度で毒ガスまたは毒粉末をまきちらすことができる。

アメリカ軍の軍は一九六六年一月十日、キムタイ部落（ビンディン省）襲撃のとき、四二人の村民を壕におしこめて毒ガスで殺害した。

アメリカ軍ヘリコプターは一九六六年二月三日と四日、ボンソン地区（ビンディン省）襲撃のさい、八百個のガス手投弾を投下した。

一九六六年五月はじめ、タイニン省襲撃にあたって、アメリカ侵略者はそれまで南ベトナムではみられなかったほど大量に、また集中的に毒ガスを使用した。かれらは十日間に一五トン以上の毒ガスをこの地域にばらまいた。一九六六年五月九日だけでも、この地域への侵入にさきだつて、三千キロ以上の毒ガスをまいた。

このような野蛮な犯罪は世界の世論のあいだに憤激の波をひきおこした。これに直面して、アメリカ支配層はみずからを正当化しようとしている。マクナマラは一九六六年三月二五日、//催涙ガスは非致死性ガスであり、この種のもは暴動をおさえるため世界で広く使用され、アメリカのハーレムでも使用された//とあいまいなぶざまな言明をした。しかしその翌日、ニューヨークの警察局長代理は、「警察は南ベトナムで使われたような種類のガスはもっていない」とのべて、アメリカ国防長官とのひどいくいちがいをみせた。

アメリカの張本人たちは、ぬけぬけと、南ベトナムで毒ガスを使ったのは人道的な目的のためだともいった。米海外情報局（USIS）は、ある調査報告のなかで、第二次世界大戦中に毒ガスでやられたもの百三十万人のうち、死んだのは//わずか//九万人にすぎないとのべている。アメリカ製人道主

義はなんと偉大なことか。

事実、南ベトナムで使ったアメリカの毒ガスは、さまざまな種類のもので、その多くはごく少量でも人を殺すことのできる戦争ガスとして類別されている。一九六六年三月二三日のUPI電によると、「南ベトナムにいるアメリカ軍はCM、DM、CSを受取り貯蔵していた」。マリオ・サルトリ博士は、一九六三年にニューヨークで再印刷された「戦争毒ガス」と題する本のなかで、C・Nすなわちクロロアセトフェノール、C⁶H⁶・C・O・C・H・C・LおよびD・Mすなわちフェナルサシン・クロールルN・H(C⁶H⁴)₂A・S・C・I(アダムサイトIIすなわちクシヤミ性の毒ガス)を、第二次世界大戦の終了前あるいは直後に製造され、研究された主要な戦争ガスとして表記している。米軍はさらにBZおよびVX、L・S・D・25などと再命名された他の種のガスまでも使用した。

C・N、D・M、C・S(チオフォスゲンともよばれ、科学者によく知られている)の効果は、せきとほきけの発作をおこし、粘液膜を炎症させ、呼吸器をつまらせ、ほんの二、三ミリグラムの微量でも人を殺すことができる。

一九六五年三月二二日、アメリカ国務省スポークスマンのマクロスキー自身も、真実からは非常にほど遠い声明であったとはいえ、南ベトナムで使用された毒ガスは、とめどもなく涙を流させるだけでなく、皮膚を刺激し呼吸器をつまらせることができることを認めた。

現地調査と実験室分析の結果、南ベトナム解放民族戦線の科学者たちはつぎのような初歩的結論に達した。

①—フーラック（フーエン省）でアメリカ軍は霧あるいは人工雲の形でヘリコプターからアルフ・クロアセトフェノールをまいた。

②—ボーイロイ（タイニン省）でアメリカ兵は空気一立方メートルあたり〇・一ミリグラム以上の濃度でアダムサイトをまき、多数の人びとにくしゃみをおこさせ、呼吸をひじょうに困難にした。

③—ビンタン、ビンラン、ビンチ村（いずれもクアンナム省）、ホアイアン県の多くの村（ビンディン省）およびホアイアンからキムソンに通じる道路沿いの地域にたいし、アメリカ強盗はクロアセトフェノール、アダムサイト、その他多くの有毒物質をまき、人びとにはげしくしゃみとはきけの発作をおこさせた。

④—その他多くの場所で、たとえばヒエップフォオ部落（クアンナム省のハンドウック村）で、アメリカ侵略者はC・N・Sおよびフォスゲン溶液にとかしたガスをつかい、空気一立方メートルあたり約二十ミリグラムの高濃度でフォスゲンおよびチオフォゲンをふりまき、数百人に重大な被害をあたえた。

これらのガスはきわめて危険で、ガス・マスクなどの予防措置にもかかわらず、これを使用したものをも殺した。多くの西側の報道によると、一九六六年一月一二日にサイゴン南西の一地域にたいしておこなわれた襲撃で、オーストラリア雇い兵部隊は防空ごうに毒ガスをそそぎこんだ。二時間後、下士官ロバート・パウテルがこれらのごうのひとつにはいったところ、かれはガス・マスクをつけていたにもかかわらず、その場で倒れて死亡した。他の人の兵士もひどい被害をうけた。

つきにかかげるのは、アメリカ侵略者が気狂いのように南ベトナムで化学戦を強化しようとしていることをしめす若干の他の事実である。

かれらは日本の神奈川県に本部をもつ米第四〇六機動細菌戦・化学戦研究所の「調査班」を南ベトナムへ送った。

西ドイツの化学者の援助をうけて、アメリカ侵略者たちは、現地で使用する毒ガスを生産するために南ベトナムに多数の工場を建設した。またかれらは、毒ガス兵器の生産と使用をたすけるために多くの西ドイツ「特殊部隊」を南ベトナムに送ろうと計画している。

すでに多年にわたって、アメリカ侵略者は大量の毒ガスをこっそりともちこんでいる。グエン・カーン（前南ベトナムかいらい首相）は一九六五年三月二三日、アメリカ侵略者が一年以上にわたってかいらい軍に毒ガス兵器を供給していたことをみとめた（ロイター、一九六五年三月二三日）。

ジョンソン政府は、南ベトナムで化学戦をおこなうことによって、おそるべき戦争犯罪をおかし、毒性化学薬物、ガスおよび類似物の使用を禁止しているすべての戦争法規と国際協定を重大に侵犯しただけでなく、人類の良心と道徳にたいして犯罪をおかし、ごうまんにもこれに挑戦した。

ヒトラー一味のファシストは第二次世界大戦のさい、強制収容所で公然とは毒ガスを使用しなかったが、今日アメリカ侵略者は非武装人民を大量虐殺するために、毒ガスを公然と大規模に標準的な戦争手段として使用している。

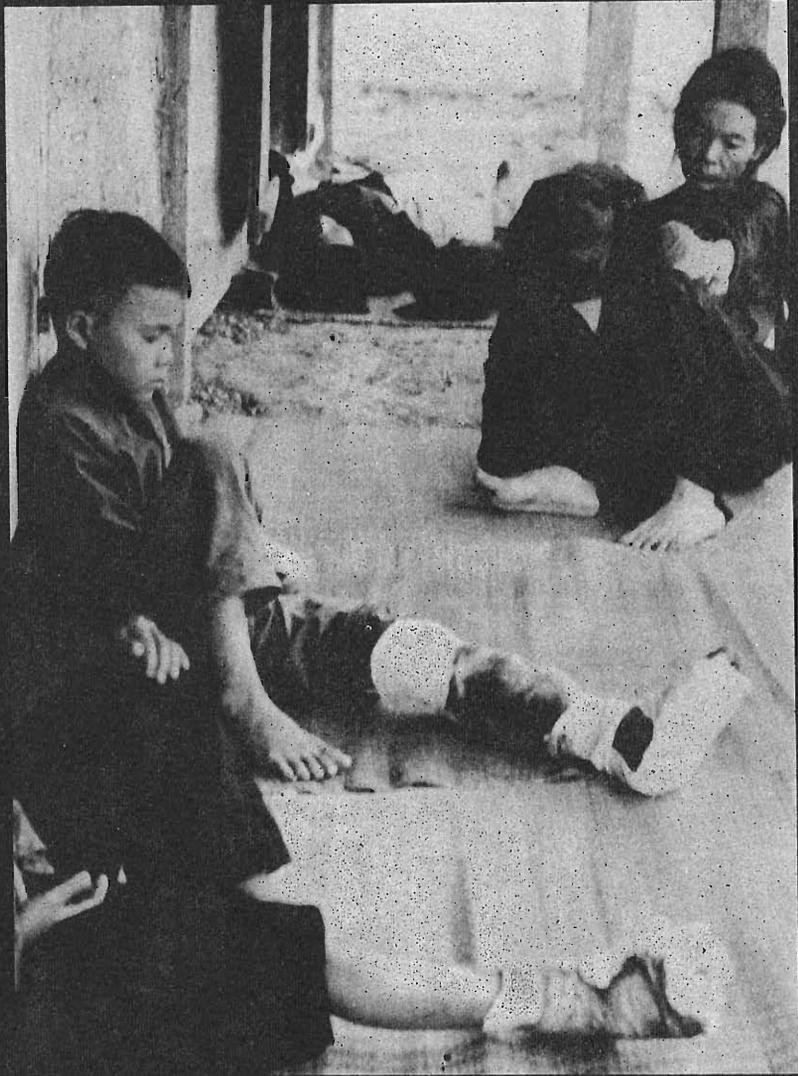
野獣／悪魔／殺し屋／ナチ／強盗／—集め
られるだけの悪態……だがこれらの言葉も
ここにある事実に対比たらなんと美しいだ
ろうか



アメリカ戦闘旅団の掃討でつかまった老人・子ども・婦人たち



65・6・24の米爆撃で破かいされた実験室とかなしみの子ども



65・11・6の爆撃による婦人と子どもの犠牲



非武装の市民に対する無差別爆撃の犠牲



65・3・3 ドンホワの道路で米軍機に殺害された10才の少年



65・3・30 米軍機の機銃掃射をうけた12才の少女



65・6・16グア・バ・モアの爆撃で死んだ二人の子ども



アメリカ侵略軍とそのカイライが7人の農民の胸を切りさく



爆撃で殺された母と子



2人の子どもはナパームで殺された



ナパーム——地上が人間の住むところでなくなる（ドンホイ市65. 1. 23）

小魚、積木、おぼえたてのカタコトと数字1. 2. 3……
いっばいつまった小さな頭脳はとびちった
（65. 7. 27ナムデイ紡績工場で殺された3. 7. 10才の子ども）



あらゆる手段による大量殺人

〃戦略村〃ないし〃新生活村〃

をよそおった強制収容所の設置

ヒトラー一味のファシストが人類にたいして犯したもつとも重大な罪のひとつは、強制収容所で数百万の人びとを迫害し、大量殺

害をおこなったことである。この罪はアメリカ侵略者によって南ベトナムでふたたびくりかえされている。

すでに一九六一年、アメリカ侵略者とそのかいらいは、一千万南ベトナム人民を一万七千の戦略村の網のなかにおしこむことを計画した。

だれもが知っているとおりの〃戦略部落〃は強制収容所にほかならない。警備所と監視塔にとりまかれ、有刺鉄線のさくのなかにおしこまれ、厳重な統制と白色テロのもとで、人びとはすべての基本的自由をうばわれ、その尊厳はひどくおかさされ、その生命は不断におびやかされた。

〃戦略村〃政策は南ベトナム人民によって打ちやぶられ、〃戦略村〃体系の一部は破壊され、アメリカかいらい支配地区はせめられたにもかかわらず、アメリカ侵略者はかれらの恥ずべき計画を断念しようとはしなかった。いまサイゴンのアメリカ軍の手先どもは、前任者たちが残した住民強制収容計画をやつきにとりつくるおうとし、これに〃新生活村〃計画のレットルをはった。エドワード・ランズケールが作成し一九六六年二月のホノルル会議で採択されたいわゆる〃平定計画〃のもと

で、アメリカ侵略者とその手先は、かれらの支配地域をひろげ、これらの偽装した強制収容所を拡張するためにやっきになっている。

新兵器の実験場としての南

—— アメリカ侵略者とその手先はもう一つのいまわしい戦争犯罪をおかし

ベトナム戦場の使用——

た。それは南ベトナムを一連の新たな殺人兵器の実験場として使用する

ることである。

一九六一年いらい、アメリカ陸軍のさまざまな部門は、近代的な殺人兵器を研究、考案、改良する特別な機関を設立し、南ベトナムで定期的にそれを実験している。アメリカ国防総省がF105、F5A、F111など多種類のジェット戦闘機、多種類の武装・非武装ヘリコプター、M113、M118など水陸両用装甲車数種、飛行艇など多数の各種輸送手段、偵察、連絡のための多数の装置、アーマライト15自動ライフル銃、爆発ガス、小型ロケットなどから毒ガス、戦闘ガスを含む化学兵器にいたる最新式殺人兵器多数を実験したのは、まさにこの地域においてであった。

アメリカ侵略者は南ベトナム人民を皆殺しにするためナパーム弾、黄リン爆弾、化学兵器など世論の糾弾をうけ、国際法で禁止されたきわめて非人道的な兵器を使用した。これらの兵器で多数の非戦闘員が無惨に殺害され、一生のかたわものなされた。家畜、財産、農作物の損害もまたじん大である。

宗教、医療、教育施設

—— アメリカ侵略者とその手先は南ベトナム解放民族戦線の支配地域に飛行機

その他公共施設の破壊

を送り、学校を爆撃し、生徒、教師多数を殺害した。とくにひどかったの

は、一九六四年七月八日授業中の生徒四一三人を殺したベンチエ省リンフン校の爆撃、一九六五年三

月一六日生徒四五人を殺したクアンナム省マノクアン校の爆撃、その他たくさんの生徒と教師を殺傷したビンディン省ミチュアン校、チュンフン校の爆撃、フーイエン省トウイホア校の爆撃である。また、アメリカ侵略者とその手先はベンチエ、ミト、その他多くの省の産院や診療所を銃爆撃した。

アメリカカいらい空軍は南ベトナム解放区の教会、寺院、礼拝堂を攻撃した。今日までカトリック、仏教、カオダイ、ホアハオ教の教会、寺院、礼拝堂百以上がアメリカ軍機に破壊され、何千人もの信者が死傷した。

ベンチエだけでも一九六五年中三十の寺院が破壊され、百人以上の仏僧と信者が死傷した。一九六四年二月六日、タイニン省ベンカウにあるカオダイの礼拝堂の周辺地区はアメリカ軍の爆弾六十トンの攻撃をうけ、千戸の家屋が炎上、破壊され三百人以上が死傷した。

アメリカカいらい空軍はまた旅客用バス、モーターボート、はしけなど地上、水上の公共輸送手段を狂ったもののように攻撃した。

アメリカ軍機は一九六六年一月八日、ツダウモトからダウテイエンに向かうトゥアンフォン旅客船を沈め二百人を殺した。二月二日、ジョンチョムからベンチエに向かうティンタン旅客船を攻撃し乗客五十人を殺傷した。救助におもむいたドントウアン船もアメリカ軍の爆弾に沈められ、三百人以上の乗客が死傷した。

衛星国軍を激励して南へ

トナム人民を無法に虐殺

かれらの主人アメリカの命令で、オーストラリア、ニュージールランド、

フィリピンの雇い兵、とりわけ韓国の朴正熙の軍隊は南ベトナム人民に

たいする数え切れない犯罪をおかしている。

一九六五年一月二二日、朴正熙の雇い兵はビンディン省トゥイフォク県のフオクホア村タンジア部落で子ども二人、妊婦三人、老人六人をふくむ非戦闘員三人を一時に殺害した。

かれらはまた一九六五年一月二七日、フーエン省トゥイホア県のホアヒエプ村を攻撃して非武装人民七人を射殺した。

翌日、同じ県のビンスアン、ミホア、ドンティンの部落を攻撃して二人を殺傷した。このとき一族四人全員が殺された。

一九六六年一月一日、トゥイホア県のホアヒエプ村ダナン部落を攻撃した朴正熙雇い兵は四二人を逮捕して、一カ所に集め、機銃掃射で皆殺しにした。さらに野蛮なことには赤ん坊を母親の手からぎとり、二つに引き裂き、その母親を射殺した。

ことしの一月上旬、ビンディン省フーカット、アンニョン、チュイフォク地方の九つの村を攻撃した朴正熙雇い兵はさらにいまわしい犯罪をおかした。アンニョン県ニョンフォン村キムタイ部落でかれらは防空ごうに毒ガス弾をなげこんで老人四人、妊婦三人、子ども九人をふくむ四十人を殺害した。こうしてアンニョン県の三つの村だけで百十人が射殺され、トゥイフォク県フオクタン村では三二人が殺された。

一月二六日フーエン省トゥイホア県ホアマ村タンフ部落で朴正熙の軍は六二人を殺傷したが、その大部分は老人と子どもだった。

一月二七日ビンデン省フーカット県カトハン村カンフォク部落では四十人が殺された。

こうして、三五日のうちにフーエン、ビンデン省の多くの地方で朴正熙の雇い兵は、アメリカの命令で三百五十人以上を殺傷し、何千戸もの家を焼き、キムチュイ部落を焦土としたのである。

アメリカ帝国主義の凶悪な共犯者である朴正熙の雇い兵その他の雇い兵は、上述の犯罪についてアメリカ侵略者とその責任を分かちあわなければならない。

以上のアメリカ帝国主義の犯罪のすべては南ベトナム人民にたいしことばでいい表わせない災厄と苦もんの種をまきちらしてきた。一九五四年から一九六五年までの一年にもおよぶ南ベトナム侵略・干渉を通じてアメリカ侵略者とその手先は、大小一六万回の攻撃をおこない、一七万人を殺し、八十万人を傷つけた。負傷者の多くは生活不能となった。かれらはまた一千の監獄に四十万人以上を投獄し、何百万もの人びとを「戦略村」「新生活村」として知られる収容所に閉じこめた。

いかえば過去一一年間にアメリカ侵略者とその手先は平均して毎日四二人を殺し、八十人に一人の南ベトナム人民を殺したことになる。南ベトナムでは住民二人のうち一人が上述の犯罪の犠牲となり、アメリカ侵略者とその手先による犠牲者を出さずにすんだ家族は一家族もないのである。

アメリカ侵略者とその手先はまたベトナム民主共和国の領土に空からの戦争を仕かけていろいろ、北ベトナム人民に新しい犯罪をおこした。

アメリカ侵略者は人口密集都市、町村を銃爆撃し、何百という学校、測候所、病院、サナトリウム、市場、橋、はしけ、波止場、商店を破壊した。これらはまた水利施設、堤防を銃爆撃し、首都ハノ

イ、北ベトナムでもっとも大きく、もっとも重要な港ハイフォン、工業中心地ナムディンをさえ攻撃した。

しかし、かれらが犯罪の道をすすめばすすむほど、南ベトナム人民から受ける打撃はそれだけ手ひどいものとなるだろうし、全世界人民のいっそうきびしい非難と嫌悪にさらされなければならないであらう。

神を信じたものも信じなかったものも
最後の勝利の日まで

南ベトナム解放軍に入隊する若き義勇兵の出発

